



読書感想文にも
おすすめ!

小学校中学年《3・4年生》のみなさんへ

夏休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2024年版]

	書名 作者名 しゅっぱんしゃ	ないよう		書名 作者名 しゅっぱんしゃ	ないよう
絵本 動物	「チャーリー、こっちだよ」  キャレン・レヴィス 作 チャールズ・サントソ 絵 いわじょう よしひと 訳 BL出版	「だれでもぼくじょう」には、心と体にきずをかかえたいろいろな動物がやってきます。新しく来たウマのチャーリーの目がよく見えないと分かったジャックは、ある日勇気をふりしぼってお気に入りの野原へとあんないしてあげることにしました。実話をもとにしたお話です。	図書 理科・植物	「知りたいおぼえたい 季節をめぐる花言葉」  ゆきき 勇気をくれる花言葉 川崎 景介 監修 汐文社	ナノハナは「小さな幸せ」、フジは「やさしさ」、クローバーは「やくそく」、アヤメは「よい知らせ」。1つ1つの花は、それぞれ意味のある言葉を持っています。勇気もらえるような花言葉とともに、由来やエピソードもしょうかいしています。
絵本 昔話	ねこまがだけ ようかい 「猫魔ヶ岳の妖怪」  ふくしま でんせつ 福島の伝説 八百板 洋子 再話 斎藤 隆夫 絵 福音館書店	人としぜんがいっしょにくらすことのむずかしさと、しぜんからあたえられるめぐみのありがたさは、語りついでいくべき伝説となりました。福島のゆたかなしぜんと動物たち、そこでくらす人びとをえがいた心にのこる4つのお話です。	図書 動物ノンフィクション	「人の手で育てられたラッコ マナちゃん」  井上 こみち 文 佼成出版社	福岡県にある水族館「マリンワールド海の中道」で生まれたラッコの赤ちゃんのマナちゃんは、お母さんのおちちをうまく飲めないようで、「このままでは死んでしまう」と、しいくいんたちが自分たちの手で育てることにしました。マナちゃんのせいちょうのお話です。
絵本 せんそう・平和	「トットちゃんの15つぶのだいず」  黒柳 徹子 原案 柏葉 幸子 文 松本 春野 絵 講談社	小学生のトットちゃんはせんそうの中、ある日、1日の食べものがだいず15つぶだけになってしまいました。それを夜までのこしておかなければならず、いつ食べるかとてもなやみます。『窓ぎわのトットちゃん』のもうひとつのお話の絵本です。	図書 日本の物語 学校生活	「先生、感想文、書けません!」  山本 悦子 作 佐藤 真紀子 絵 童心社	八月一日、夏休みの登校日にみずかはふくれっつらで「わたしには、感想文、むり!」と言いました。書こうとするとおもしろかった気持ちがしゆるしゆると消えてしまうのです。しかし、読書感想文を書かないわけにはいかないこまったみずかは、あることを思いつき…。
絵本 おしごと	「世界でいちばんリクエストのおおいくつ屋さん」  十河 孝男 文 十河 ヒロ子 文 本田 亮 絵 合同出版	てぶくろやさんのそごうさんはある日「転びにくいくつ」を作ってほしいとたのまれました。くつやさんも作れなかつたくつを作りましたが、そごうさんはうかない顔です。まだこまっている人がほんの少しいて、その人の声を大切にしたいと考えました。	図書 外国の物語 家族	「いもうとなんかいらない」  ロイス・ダンカン 作 平澤 朋子 絵 小宮 由 訳 岩波書店	メアリー・ケイはおねえちゃん。いつも遊びのじゃまをする妹のスザンヌをどうにかしようと考え、そして、スザンヌをだれかのペットととりかえっこしてもらおうと思いつきます。お姉ちゃんの心の動きと、きょうだいのせいちょうをいきいきとあらわしています。
絵本 れきし・でんき	「カタリン・カリコのお話」 ぜったいにあきらめないmRNAワクチンの科学者  デビー・ダディ 文 ジュリアナ・オークリー 絵 竹内 薫 訳 西村書店	新がたコロナワクチンはどのようにして生まれたのか? ノーベル生理学・医学賞受賞のカタリン・カリコはこんなにも負けずに研究をつづけ、ついにmRNAのワクチンを使うほうほうを見つけます。新がたコロナウイルスから世界の人をすくった科学者のでんき絵本です。	図書 名作	「ふしぎの国のアリス」  ポプラ世界名作童話 11 L.キャロル 作 石崎 洋司 文 千野 えなが 絵 ポプラ社	しゃべるウサギを追いかけて、あなに落ちたアリスのついたところは、今まで見たこともないふしぎの国。歩くトランプ、おかしなぼうし屋、おかしな三月ウサギ、わらってばかりのネコなど、はちゃめちゃだけど楽しいことだらけのアリスの大ぼうけんがはじまります。